

2 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>【プロジェクト目標】 1～3年生のリテラシー向上へ向けた教員の教授スキル向上と、学校生活に必要な衛生設備・教材の導入により、タパントン郡の対象小学校における学習環境が改善される。</p> <p>達成度：達成した。3年間の活動の成果として、教員の教授スキルが向上・定着し、学習環境が劇的に改善した。この結果、子どもたちが楽しんで学べるようになったとの声が多く聞かれた。学習環境改善においては、コミュニティにおける学習サポート強化、家庭での学習環境整備、学校の環境整備（衛生設備の整備、図書・教材の整備、読書環境の整備）を達成した。</p> <p>2023年2月末のモニタリングでは91%の教員が研修で学んだスキルを授業に活用していることが確認された。また、読書グループに登録した児童の98%が定期的に参加しており、96%の保護者（サンプル調査）が家庭で子どもの学習をサポートしていることが確認できた。14校に手洗い場を設置し、13校にラオス教育・スポーツ省の基準を満たしたトイレ（バリアフリーデザイン）と給水システムを設置した。この結果、終了時評価では屋外排泄が84%から18%へ66ポイントと大幅に減少し、88%が手洗いに石鹸を使用したと回答した（非介入校では68%）</p> <p>【上位目標】 タパントン郡において、対象小学校における1～3年生のリテラシー（読解力）が向上することにより、識字率の向上ひいては退学率の減少にも寄与する。</p> <p>事業対象校3年生のうち、文章を読んで意味を理解できる児童がベースラインの15%から44%へ29ポイント上昇した（非介入校では9%から5%へ4ポイント減少）。また、事業対象校における退学率が2019年の10.65%から5.6%に約5ポイント減少した（非介入校では12.96%から9.34%へ約3.6ポイント減少）。</p> <p>（今期事業達成目標）生徒のリテラシー向上へ向け教員の教授スキル及びコミュニティでの読書活動実施体制が定着し、全対象校の学習環境が改善されるとともに、事業終了後の持続発展性へ向けた計画が策定される。</p> <p>達成度：概ね達成した。上述の通り、教員の教授スキル定着は達成し、読書活動実施体制も定着が確認できた。一方で、事業終了後の持続発展性については協議・提言を重ね、継続可能な活動の確認と計画策定は試みたものの、近年の経済危機の影響もありラオス政府の教育予算は減少し続けており、特に地方への予算配分が極めて限られているなかで、活動継続への具体的な予算取り付けや確約には至らなかった。今後もラオスでの活動は継続していくため、持続発展性向上への取り組みは続けていく。</p>

<p>(2) 活動内容</p>	<p>本事業は3年間で計画した事業の最終年にあたる3年次である。各活動実施内容の詳細は以下の通り。</p> <p>活動【1】：1～3年生のリテラシー向上へ向けた、教員の教授スキル強化</p> <p>活動【1】 1. リテラシー向上指導員（マスター・トレーナー）の育成</p> <p>1.3 指導員向けリフレッシュ研修（TOT）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> リテラシー向上指導員リフレッシュ研修を計2回実施した（団体スタッフを含むマスター・トレーナー13名対象、各3日間）。リテラシー教授法指導メソッドの復習と、これまでの活動の振り返り、課題・成功事例についての協議、最終年次における事業終了を見据えた持続発展性強化のための取組みの確認を行った。1回目の研修では、本事業と重複した活動を行う他郡の事業と合同で行い、成功事例・課題・教訓の共有、意見交換を行った。研修後のテストでは100%の指導員が正答率80%以上となり、事業終了後もリテラシー教授法指導を継続して担うための知識とスキルが定着していることを確認できた。また、ラオス教育スポーツ省 RIES¹職員1名が本活動を含む複数の活動に3年の事業期間を通して参加し、本事業のアプローチ及び成果を高く評価する理解者として、中央レベルで事業終了後も本事業のアプローチを推進していけるキーパーソンとなった。本事業のアプローチはラオス政府の教育中期計画に合致したものであり、同職員はイノベーションや成功事例の抽出等に携わる部署の専門官であるため事業終了後の持続発展性を担っていくことが期待される。なお、本事業モデルは後継N連事業及び当団体ラオス事務所自己資金事業で継続して実施しており、同専門官はこれら事業へ引き続き携わる予定である。 <p>活動【1】 2. 1～3年生担当教員のリテラシー教授スキルの強化</p> <p>2.2 1～3年生担当教員に対する教授法リフレッシュ研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記活動【1】 1. で育成したリテラシー向上指導員が講師となり、教授法教員研修を計2回実施した（1回目教員31名参加、2回目30名参加、各回内10名女性、2グループに分けて実施）。これまでの成功事例、課題・教訓の共有にくわえ、リテラシー能力を構成する5つの要素²を育成する活動を取り入れた授業の実践方法の復習と現場での課題についての意見交換、教科書に沿った5つの要素育成を取り入れた教案の作成、教案に基づく授業のデモンストレーションとそれについての教員間でのフィードバック・ディスカッション、形成的評価³実践の復習と課題共有を行った。研修に参加した教員の90%が研修後のテストで80%以上正解し、知識が定着していることが確認できた。終了時評価では、6つの教授スキル⁴のうち、どれを教師が実践しているか児童が回答したが、事業対象校では83%が「文字の発音を学ぶ」と回答したのに対し、非介入校では39%、「歌を学ぶ」は対象校で88%、非介入校で48%、「教師が児童に問いかけ・質問をする」は対象校で80%、非介入校では45%、「教師が読み聞かせを行う」は対象校で89%、非介入校で61%と、明確な差が表れた。質的評価では、教員が自身の教案や授業を客観的に分析・評価する能力や、教える内容に合わせて適切な活動を準備し実践する能力、またこれらができるという自信を培っていることが確
-----------------	---

¹ Research Institute for Educational Sciences の略称

² 5つの要素とは文字知識、音声・発音についての知識、語彙知識、音読の流暢さ、読解である。

³ formative assessment, 学習指導の途中で実施する評価で、学習指導が目的を達成しつつあるか学習者の理解度を測り、その結果をふまえたような点で学習指導計画の修正が必要であるかを知るために行う評価活動（テスト、質問を含む）

⁴ 文字の発音を学ぶ、歌を学ぶ、一人で音読をする、他の児童と音読をする、教師が児童に問いかけ・質問をする、教師が読み聞かせを行う

認され、事業終了後の持続発展性に資するという評価を受けた。また、「事業を通して、どの児童がどの読解スキルにおいてサポートが必要か判断し、学習到達度のモニタリングができるようになった。以前はテストの点数で評価していたが、どの読解スキルが習得できていて、どれが習得できていないかを判断することはできなかった」という声が聞かれた。このコメントは教員が研修で学んだスキルを自律的に運用できるようになっていることを示しており、事業終了後の持続発展性が期待される。

活動【1】3. 対象校での図書整備・管理

3.1 各校の図書の利用状況や整備・管理状況の確認

- モニタリング訪問時や、対象校での活動実施時に合わせて各校の図書利用状況や整備・管理について確認し、改善策の助言等を行った。

3.2 教員リフレッシュ研修の実施

- 対象14校の教員及び対象14村のVillage Education Development Committee (VEDC)計40名(内女性12名)を対象に、図書の活用や整備・管理に関する研修を実施した(2グループに分かれ、クラスター村で実施)。参加者は児童の読書意欲を高める図書の活用方法や、図書の登録、貸出し、返却を含めた管理方法について復習し、各校の課題や成功事例、行っている工夫等を共有した。破損や紛失を恐れて図書の貸し出しに教師・児童ともに消極的なことが2年次において課題となっていたが、破損・紛失があってもよいので貸し出しをするよう教員・保護者・児童への働きかけを続け、また破損防止のための図書貸し出し用クリアフォルダーの配布等を行った結果、図書の貸し出しが増加し、子どもたちが家庭での読書に積極的に活用していることが確認された(モニタリング調査では79%の保護者が本を借りるよう週に1-2回以上子どもに促していると回答)。終了時評価で「家に子ども向けの本(story books)がある」と答えた児童は63%と、ベースライン値の8%から大幅に増加した。一方、「家に本が一冊もない」と答えた児童はベースライン値の19%から7%に減少した。

3.3 各校への図書(約350冊)、本箱、読書コーナー用資材等の供与

- 各校へ図書および各種リテラシー教材、本棚、読書コーナー用資材(椅子・床マット等)を供与し、読書コーナーを拡充した。事業開始前の図書が一冊もない状況から図書整備環境は劇的に改善し、読書コーナーの本を読むことを楽しみに毎日学校に通っているとの声も聞かれた。モニタリング時には児童が自発的に読書コーナーの図書を読んでいる様子が多く見られ、児童が読み方を教えあって読書をしている光景も見られた。
- 本事業では、指標の1つとして教室内の「適切な読書環境(print rich environment)の整備」に取り組んできたが、終了時評価では、教室内の色とりどりの掲示物や図書がある環境が子どもたちを惹きつけ、子どもたちの学校に行きたいという意欲が向上したとの声が教員から多く聞かれた。これら掲示物の学習促進効果も評価され、授業中のアクティビティの際に子どもたちが教室に掲示されているラオス語のアルファベット表を頻繁に参照している様子が見受けられた。
- 屋外用テーブルセットと屋根資材を供与し、屋根付きの屋外用読書コーナーを7校に設置した(2023年3月17日承認の事業変更承認申請第2号による追加活動)。残り7校には自己資金事業で設置し、対象14校の1,061名の子どもたちが直射日光を避けて屋外で読書を楽しめるようになった。先に自己資金で設置した学校では児童に人気が高く、出席率向上への効果が確認されている。

活動【1】4. 生徒のリテラシー調査実施および教授法改善への活用

4.3 調査員対象の調査手法トレーニングの実施

- 調査員（DESB, PESS 職員⁵をはじめとする政府カウンターパートと WV スタッフ。計 35 名、内女性 17 名）を対象に調査手法のトレーニングを実施した。一貫性のある有効なデータを収集できるよう、タブレット端末とアプリケーションの使い方詳細とフォームの入力方法詳細を確認した。

4.4 リテラシー調査の実施

- 対象 14 校および非介入校 6 校でリテラシー調査を実施した。3 年生児童計 210 名（内対象校児童 166 名（内女子 96 名）、非介入校児童 44 名（内女子 11 名））を対象に調査を行った（調査は、当日学校に来ていた 3 年生児童のうち合意を得られた児童に調査員が 1 対 1 で実施）。
- リテラシー調査により、文章を読んで意味を理解できた対象校 3 年生児童がベースライン値 15% から 44% に大幅に上昇したことが確認された。一方、非介入校では 5%（1 年次 9%）と本事業の成果が明確に確認できる結果となった。44% は全国平均の 23%（2012 年）⁶ を大きく上回る数字であり、少数民族が多く居住する農村部での学習成果としては非常に高い成果を達成した。

4.5 関係機関とのレビュー・ワークショップの実施

- 上記リテラシー調査の分析結果にもとづき、関係機関とのレビュー・ワークショップを実施した。対象校校長・村教育委員会メンバー計 58 名（内女性 11 名）、PESS 職員、DESB 職員、事業スタッフが参加し、リテラシー調査分析結果概要及び詳細を共有し、各校の結果の背景にある要因や課題の分析・協議を行った。特に結果が良かった学校から結果につながった要因の共有を行い、村教育委員会と学校との積極的な連携、コミュニティ住民との連携や、子どもを学校に通わせることの重要性についての啓発メッセージの日常的な共有等が挙げられた。事業実施のなかで村教育委員会が児童の学習成果向上に大きな影響を持つことが明らかになったため、同ワークショップでは村教育委員会の役割・計画策定法等についてのセッションを実施し、各校が学力調査の結果を踏まえた学校運営計画を作成し全体に共有した。また、事業終了後の持続発展性についても取り上げ、各村が主な活動を継続するための計画策定を行った。

活動【2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポート強化

活動【2】1. コミュニティでのリテラシー向上活動（読書グループ）推進へ向けた住民ボランティアの育成

1.2 読書グループ活動用の必要資材（絵本、本箱、啓発ポスター、紙・文具など）の補充・整備

- 読書活動用の必要資材（絵本、本箱、啓発ポスター、紙・文具など）を各コミュニティに設置した 14 の読書グループに供与した。

1.3 リテラシー向上活動の指導員研修実施（5 日間）

- リテラシー向上活動の指導員研修を実施した。PESS、DESB 職員、教育スポーツ省、団体スタッフからなる指導員計 13 名が参加し、コミュニティでの読書活動詳細と読書グループ・ファシリテーターの育成・コー

⁵ DESB は District Education and Sports Bureau（郡教育・スポーツ局）の略（以下同）。PESS は Provincial Education and Sports Services（県教育・スポーツ局）の略（以下同）。

⁶ ラオス教育スポーツ省が 2012 年に実施した学習調査 National Assessment of Student Learning Outcome (ASLO III) による、小学 4 年生に問題なく進級できるレベル 3 (independent level of proficiency) の%。本事業で使用したツールは 3 年生が学年にふさわしい読み書き能力に到達しているかを測るため同等と考える。

チング⁷法の復習を行った。また、これまでの活動でうまく行っている点と課題、今後の改善策、持続発展性強化へ向けた取り組みについて協議した。

1.5 「読書グループ・ファシリテーター」育成リフレッシュ研修の実施

- 「読書グループ・ファシリテーター」育成研修を実施した（2グループに分けて各グループ年2回実施）。1回目計48名（内女性21名）、2回目計37名（内女性16名）が参加し、コミュニティでの読書活動実践方法についての復習にくわえ、これまでのコミュニティでの読書活動実践の効果と課題、成功事例について意見交換を行った。特にガイドラインに沿った活動の実践において、読み聞かせとゲーム活動についての理解・スキル強化が必要と確認され、復習とフォローアップを行った。研修終了時のテストでは、100%の参加者が研修前に比べて正答率が上昇し、知識の定着が確認できた。なお、当初計画では56名を予定していたが、引っ越しや家庭の事情等で読書グループ・ファシリテーターとしての活動の継続が難しくなった等の事情により、欠員補充をしたものの参加人数が計画を下回った。

活動【2】2. コミュニティでの子ども向け読書グループ活動

2.1 コミュニティでの読書グループ活動の継続実施

- 読書グループ活動は14グループで計548セッション、延べ13,689名（内女子延べ7,208名）の子どもたちが参加した（登録児童計387名（内女子207名））。読書グループ活動のセッションは、読み聞かせ、読んだ話についての質問と応答、工作を通じた文字の学習、歌や踊りを通じた学習、作成した工作を自宅に持ち帰るといった要素を毎回含む。モニタリングでは読書グループに登録している子どもたちの98%が定期的に参加していることが確認された。

2.2 読書グループ・ファシリテーターが中心となり、各村で読書啓発イベントを年1回継続開催。事業地において欠如している情操教育促進も兼ね、スポーツとリテラシー学習促進活動を組み合わせた活動・子どもの保護に関する啓発活動も組み込む

- 対象14校で事業スタッフと読書グループ・ファシリテーターが協働で読書啓発イベント（リーディング・フェスティバル）を実施した（各校1回）。イベントには児童1,062名（内女子576名）、コミュニティ住民488名が参加した。ゲームやスポーツを取り入れて、リテラシーを楽しみながら学ぶ活動を行い、日頃の学習成果を保護者らの前で披露する場ともなった。同イベントは6月の国際子どもの日と、新年度開始後に合わせて実施し、それぞれ子どもの権利啓発メッセージ共有の機会、長期休暇後の登校を促す機会とした。同活動には現地メディア関係者を招へいし、SNSメディア、SNSテレビ等で画期的な活動として取り上げられた。同活動で用いたスポーツ用品は対象校に供与し、子どもが学校でスポーツを楽しめる環境を拡充した。本活動は教員・児童・政府カウンターパートからの評価が非常に高く、終了時評価では年2回実施すべきとの提言があった。

活動【2】3. 子どものリテラシー向上に関する保護者の知識とスキル向上

3.1 保護者対象の読書啓発リフレッシュ・ワークショップの開催

- PESS/DESB職員およびWVスタッフがファシリテーターとなって、各対象村で保護者対象の読書啓発ワークショップを実施した（3回に分け、7セッション）。14村で計369名の保護者（内女性164名）が参加し、

⁷ 本事業でいう「コーチング」とはトップダウン式、または上下の力関係を前提としたモニタリングや指導ではなく、あくまで能力の強化を促すために継続的に必要なサポートを提供する手法（supportive supervision）を指す。以下同。

家庭での子どものリテラシー習得サポート法について学んだ。具体的には①子どものリテラシー習得について ②家庭での日常的な行動を通して子どもにリテラシーを教える方法 ③子どもとの読書活動方法 ④読書後の理解度の確認方法 ⑤リテラシー習得を促進する家庭での教材の準備方法 ⑥家庭での学習・読書用スペースの設置方法を学んだ。モニタリング時に行った調査（ワークショップに参加した保護者の約23%のサンプル調査）では、96%の保護者が家庭で子どもの学習をサポートしていると回答した。終了時評価では、家族がお話をしてくれる(tell stories)と回答した児童がベースラインの27%から56%へ29ポイント上昇した。また、家族が読み聞かせをしてくれると回答した児童は50%から69%へ19ポイント上昇した。対象地域には文字が読めない保護者も多いが、「本の絵を指差して名前を教えたり、質問や話をしたりする」「文字を書くときに手を支える」等簡単にできる方法をワークショップで学び実践しているとの声が聞かれた。また、半数以上の保護者が、子どもが本を声に出して読むのを聞いている(listen to children read)と回答した。これらサポートを行う父親と母親の割合に有意な差はみられず、子どもの教育サポートへの参画度は同等であった。

3.2 読書コーナー設置支援

- 対象小学校1-3年生の子どもがいる596世帯に、家庭での学習・読書用スペース設置に必要な資材（教材の作成に必要な文具、ソーラーランプ及び子ども用の机（ラオス語アルファベット表付き、折り畳み式））を供与し、家庭での学習環境を拡充した（子ども用机については2023年3月17日事業変更承認申請第2号による追加項目）。モニタリング調査では、75%の家庭で読書用コーナーを設置していることが確認された。終了時評価では、本活動により子どもたちが経済的状況に関わらず家庭でも文字に触れ、学習をすることができるようになり、リテラシー向上に資したことが確認された。さらに、子どもたちが家庭で読書を行う時間帯は夕食後が多いことから、供与したソーラーランプの有効性が確認された。また、終了時評価において、貧富の差による学習格差を是正する取り組みとして本事業活動のなかでも特に意義のある活動であるとの評価を得た。

活動【3】 小学校の水衛生設備改善・健全な学習環境整備

【3】 1. 対象校における水衛生設備などの環境改善

1.3 水衛生施設用備品の調達・供与

- 対象校13校におけるトイレ建設及び7校における給水システム（井戸）新設・改修（新設6校、改修1校、うち電動5、手動2）を完了した（同活動は2年次から一部持越した（2023年1月19日事業変更承認申請第1号により承認））。また、他6校において自己資金で給水システム建設・改修を完了した。これにより対象13校の児童1,012名（内女子498名）名がいつでも必要なときにトイレを利用し水が使用できるようになった。給水システムからトイレ、手洗い場（1年次に設置）に水が引けるように配管をし、水汲みをすることなく蛇口をひねるだけでトイレ、手洗い場でいつでも水が使い、手を洗えるようになった。また、本事業で供与した浄水フィルターを使って、学校でいつでも安全な飲み水にアクセスできるようになった。児童が水を飲んだりトイレを使ったりするために帰宅する必要がなくなり、子どもたちからは「蛇口をひねるだけで水が出てくるのがうれしい」「蚊や動物を気にしながら林で屋外排泄をしなくてよくなった」との喜びの声が聞かれた。終了時評価時の調査では、84%の児童が学校のトイレを日常的に利用していると回答した（非介入校では51%）。
- トイレはラオス式（和式）トイレ2室と車いす対応トイレ1室を備え、スロープや手すりの詳細まで障がい配慮した設計となっており、ラオ

ス教育スポーツ省の基準を満たしている。事業対象地域を含むラオス農村部の小学校では、UNICEF等の主要なドナーの資金で建設されたトイレでも上述の基準を満たすトイレはほぼなく、終了時評価では評価項目「公平性」において、主に建設物のインクルーシブネスの面で他に類をみないとして高く評価された。

- これら施設にはODAのプレートを設置し、郡政府と文書への署名を交わし引き渡した。政府への引き渡し式は自己資金で実施した校舎建設と併せて行い、サバナケット県副知事が参加し日本の支援への謝意が伝えられた。この様子は新聞（ビエンチャン・タイムズ）で取り上げられた。
- トイレ・井戸施工においては各村に設置した教員・VEDCメンバー等からなる建設管理委員会（委員会メンバー計135名、内女性18名）が日々のモニタリングを担い、施工が計画通りになされているか事業チームへ報告を行った。また、DESB職員と事業スタッフがほぼ毎日現場を周り建設の質管理を含めモニタリングを行った。建設管理委員会には設備の維持・管理方法についての研修を重ねて行い、事業終了後も適切な管理ができる体制を整えた。また、教員・児童にもトイレ・手洗い場の清掃法についての研修を念入りに行い、モニタリング時には清潔に保たれている様子を確認した。
- 7校において手洗い場（1年次に設置）に屋根を設置した（2023年3月17日承認の事業変更承認申請第2号による追加項目）。残り7校においては自己資金で設置した。当初は屋根部分にビニール製のネットを使い日よけとしていたが、雨や日差しを十分に防げず、強風や強い日差し、雨による劣化が激しく、頻繁な交換が必要であった。屋根設置により児童が直射日光を避け手洗い・歯磨き活動をできるようになった。
- 健全な学習環境整備の一環として7校に遊具（各校5点）を供与し、校庭環境を整備した（2023年3月17日承認の事業変更承認申請第2号による追加項目）。遊具設置により子どもたちが安心して遊び、事業地において欠如している情操教育の機会と社会的スキルの習得や社会的感情発達につながる場を整備した。残り7校においては自己資金で既に設置済である。自己資金で設置した7校においては遊具の設置が児童の登校意欲や出席率向上に極めて有効であることが確認されており、対象14校において事業終了後も登校・学習意欲が継続・強化されることが期待される。
- 対象14校に水衛生施設用備品（歯ブラシ・歯磨き粉、石鹼、トイレ清掃用具、ごみ箱など）を供与し、適切な衛生習慣習得に十分な備品がある環境を整えた。また、下記活動【3】2.でこれら備品を使ってトイレや教室・校庭の清掃方法の研修を繰り返し行い、教員・児童がこれら施設を衛生的に保てるようになった。

【3】2. 対象校での衛生的な習慣の習得

2.1 学校衛生活動の実施

- 教員及びVEDC、対象校児童1,061名を対象に学校衛生研修を行い、学校での衛生活動を実施した（2回）。本活動1回目は9月の新年度開始に合わせ、長期休暇後の子どもたちの登校を促す機会とした。これに加えて、学校モニタリングの機会を利用し、学校での衛生活動促進も繰り返し行い、適切な衛生習慣の定着を確実なものとした。研修では、トイレの掃除方法や維持管理方法、学校を清潔に保つ方法について説明した。衛生活動では適切な手洗いの5ステップ、適切な歯磨きの方法を復習後実践し、各校に設置した水衛生クラブ（児童からなる水衛生クラブ内の5グループが曜日を分担し学校での毎朝の手洗い・歯磨き衛生活動をリードし、教員のサポートを得つつ水衛生備品の管理も担当する）の活動状況や学校での衛生活動実施方法・計画詳細について確認し、必要

なフォローアップを行った。終了時評価では84%の児童が学校のトイレを日常的に利用していると回答し（非介入校では51%）、89%が24時間以内に2回以上手洗いをしたと回答した。また、88%が手洗いに石鹸を使用したと回答し（非介入校では68%）本活動の成果が確認された。

- 上記の活動実施にあたり必要となる石鹸、歯ブラシ、歯磨き粉等を教材として対象14校児童及び学校に配布した。これらは、教員のサポートを得つつ、上述の水衛生クラブが引き続き管理する。

活動【4】：政府関係機関との連携・モニタリング体制強化

【4】1. PESS/DESB 関係者らによる本事業への理解促進と連携強化

1.2 DESB と連携してエンドライン調査（3年次）を実施し、各校の現況をアップデートしたファクト・シートを作成・共有する。

- 2023年2月、終了時評価を実施した。外部コンサルタント業者と契約し、調査の枠組み・ツールを合意した上で定量・定性調査を実施した。評価の視点は、妥当性、整合性、効率性、インパクト、公平性、持続可能性であった。当初計画では外部コンサルタント1名との契約を想定していたが、公募の結果外部コンサルタント業者を選定し、リードコンサルタント率いるコンサルタントチーム（調査員3名、データ分析及び報告書作成担当コンサルタント1名）が評価プロセスを率いた（事業変更報告書第3号による変更）。データ収集・分析においては外部コンサルタントチームが定質調査を担当し、本事業で指導員を務めた PESS, DESB 職員及び当団体スタッフが定量調査を担当した。フィールドでのデータ収集にはラオス政府との事業 MOU の規定に則り中央・県・郡各レベルのカウンターパートが参加した。まず外部コンサルタントチーム及び当団体事業チームがデータ収集者計35人に研修を行い、その後対象14村及び非介入校6校でデータ収集を行った。定量評価は210名の3年生児童を対象に、定性評価では計199名の保護者、村教育委員会メンバー、教員、事業スタッフ、政府カウンターパートを対象にインタビュー・グループディスカッションを実施した。また、授業のオブザベーション・家庭訪問も実施調査結果については本報告書内の該当活動の項目及び下記「達成された成果」に記載した。また、調査結果に基づくファクトシートを作成し政府カウンターパートに共有した。

1.3 PESS/DESB 関係者との定期会合の実施

- PESS/DESB 関係者との会合を計3回実施した。
- 2022年9月の県レベル政府会合では、事業開始からそれまでの活動の振り返り、リテラシー調査結果詳細の共有と対応策の協議、その他活動成果の達成状況等の確認を行い、残りの活動計画を共有・協議した。また、ラオス政府との事業 MOU 期限が2022年9月末だったため、申請していた延長について協議を行った。会合には対象校校長・対象村村長代表も参加し、現場からの声を反映した議論をすることができた。
- 2023年2月には中央・県・郡レベルカウンターパート参加で終了時評価を実施した。終了時評価後の振り返り会合では評価の速報を共有し、データ収集に参加し実際に成果を目で確認した政府カウンターパートから驚きの声とともに総じて高い評価を受け、事業の有効性を確認し、事業終了後も継続できる活動について提言を行った。
- 2023年3月事業終了会合を実施した（中央・県・郡政府カウンターパート、対象校校長、対象村村長参加）。これまでの事業活動詳細と達成された成果、課題・教訓を共有し、サバナケット県副知事から事業成果に感銘を受けている旨謝辞が述べられた。現場で教育を担う教員・村教育委員会・政府各レベルが事業成果を踏まえての事業終了後の持続性に向けた協議を行う良い機会となった。

【4】 2. 政府機関関係者と連携した学校およびコミュニティでの活動に対するモニタリング／コーチング体制構築

2.1 キックオフ会合の実施

- 3年次事業開始ミーティングをタパントンにて実施し、2年次の活動レビューと3年次の計画詳細の共有・再検討を行った（4月）。

2.2 学校へのモニタリング／コーチング訪問および校長との定期会合

- 各活動実施に際して行った学校およびコミュニティでのモニタリング・コーチングにくわえ、DESB職員とWVスタッフが各校を6回訪問し、授業での教授法実践状況、図書の利用状況・学習環境・衛生促進活動の状況などについて、モニタリングを行い、教員・校長との協議、助言を行った（2022年9月～2023年2月に毎月実施）。授業実践において適切な教授スキルや教材が用いられているか、学習の助けとなる掲示物等が教室に整えられているかといった基準にもとづきモニタリングを行った。

2.3 コミュニティへのモニタリング／コーチング訪問

- DESB職員とWVスタッフがコミュニティを6回訪問し、読書グループ活動開始・実施にかかるサポートと助言を行った（2022年9月～2023年2月に毎月実施）。研修を受けたボランティアがファシリテーターを務めている、ガイダンスで定められたカリキュラムに基づいて活動を行っている、必要な資材を備えている、毎週活動実施を基本とする、コンスタントに参加者がある、などの基準に沿ってモニタリングを行い、必要なコーチングを行った。
- 終了時評価では、繰り返し実施した研修に加え、本事業で注力した十分な回数のモニタリング・コーチングによるサポートが教員・読書グループ・ファシリテーターの知識・スキル向上及び定着、実践を助けた主要因であったことが確認された。「研修だけでは学んだことを忘れてしまうこともあるが、定期的なコーチングにより学んだことを授業で実践することができた」との声が聞かれた。モニタリングを通してDESB、PESS職員と各校教員との関係性が強化されたため、事業終了後の連携体制維持が期待される。

(3) 達成された成果

【成果1】 1～3年生のリテラシー向上へ向けた、教員の教授スキルが強化される

指標

- リテラシー向上TOT研修に80%以上出席しポストテストで80%以上を正解した指導員の割合

目標：研修受講者（8人予定）の80%に達する

	目標	実績
1年次	80%	91% (11人中11人)
2年次	80%	92% (12人中11人)
3年次	80%	100% (13人中13人)

本指標は目標を20ポイント上回り、100%を達成した。PESS職員、DESB職員の指導員6名は事業終了後の持続発展性の鍵となるが、教員への指導を継続していく知識・スキルが十分に定着していることが確認された。今後は後継N連事業への講師としての参加や、後継事業の指導員との情報交換等の機会を検討し、更なる持続発展性強化を図りたい。

- 教授法研修に80%以上出席しポストテストで80%以上を正解した教員の割合

目標：研修受講者の70%（研修実施時に測定）

	目標	実績

1年次	70%	52% (36人中19人)
2年次	70%	81% (36人中29人)
3年次	70%	90% (31人中28人)

本指標は目標を20ポイント上回った。教員の知識・スキルは定着が確認でき、事業終了後も児童の学習成果を保ち向上させていくことが期待される。

- 対象校のうち読書環境（読書コーナー）が各校の環境に合わせて適切に整備されている学校の割合。（図書、ポスター、図解、ワード・ツリーなどの各種リテラシー教材が、児童と教員の双方にとって、いつでも読む・見ることができる状態に設置されていることが基準）

	目標	実績
ベースライン値	-	0%
1年次	25%	28%
2年次	75%	42%
終了時	100%	43% (53教室中23教室)

本指標は目標に及ばなかったが、読書コーナーは14校中14校で設置され、適切に整備されている。また、本指標は学校ごとではなく教室ごとにデータを収集したが、学校ごとに見た場合、93%（14校中13校）の学校でこの指標を満たす教室が少なくとも1室あった。目標を下回った要因として、教室ごとにデータを収集しており、当団体が設ける基準3つ全てを満たしている必要があること、また、うち2つが満たすことが困難な基準であることが挙げられる。3つの基準とは①十分な教材があること（筆記用具があり、少なくとも2名の児童に対し教科書1冊がある）、②教師が教材・道具(teaching aids)を用いて教えている、③教室の壁の50%以上が文字表やポスター、ワード・ツリー等の教材で覆われているが、①、③を満たすことが困難であった。理由は、①についてはラオス農村部において教科書の供給が十分でないこと、政府から学校に教科書が供給されていても児童に配布していない場合があること、また、配布していたとしても児童の家に置いてあったり、机の上に出していなかったり、モニタリングの際に正確に測ることが困難なこと等である。③については、壁の50%以上が覆われているというのが現実的ではないこと、また壁以外の場所に教材を掲示している場合は考慮されないことも挙げられる。

- 対象校において、リテラシー調査で合格ラインに達した3年生の割合が毎年上昇する

	目標	実績	非介入校
ベースライン値	-	15%	
1年次	25%	5%	9%
2年次	1年次から少なくとも10%上昇	33%	20%
終了時	2年次から少なくとも10%上昇	44%	5%

本指標では、2年次から11ポイント上昇し、目標を達成した。ベースライン値からは29ポイント、1年次12月に実施した学力調査結果（5%）からは39ポイント上昇し、本事業の主な目標である学習成果の大幅な向上が確認された。この数値はラオス全国平均の23%⁸（2012年）を上回

⁸ [1] ラオス教育スポーツ省が2012年に実施した学習調査 National Assessment of Student

り、農村部の少数民族が多く暮らす地域では非常に高い結果である。当団体ラオス事務所の同プロジェクトモデルによる他事業と比較して、ベースライン値は最も低かったが、上昇幅は他事業を上回った。

14校中2校では本指標100%を達成した。一方で、0%の学校も2校あり、教員のモチベーションや教育への村教育委員会及びコミュニティの参画度合いと学習成果の相関関係が確認された。また、2年次より下がった学校もあったが、熱心に教えていた教員が退職し、他の教員の負担が増加したことが影響したと考えられる。結果をレビュー・ワークショップで確認し、成功要因や課題の共有を行うとともに、この結果を踏まえて各校が学校運営計画を作成した。

- 教授法研修受講者のうち、研修で獲得したスキルを活用してリーディングを教えている教員の割合が増加する（学校モニタリングの際に測定）

	目標	実績
ベースライン値	-	0%
1年次	増加	100%
2年次	1年次よりも増加	92%
終了時	2年次よりも増加	91%

本指標は2年次から1ポイント下がり目標達成とはならなかったものの、高い水準を維持しており、児童の学習成果が大幅に向上したことから教員の教授スキルが定着していることがうかがえる。なお、2・3年次が1年次よりも減少している理由は、2・3年次においてデータ収集の際により厳密に基準に沿っているかを判断したことが挙げられる。

【成果2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポートが強化される

指標

- 読書グループ・ファシリテーター育成研修で75%以上のセッションに出席しポストテストでプレテストよりも正解数が増えた住民ボランティア（読書グループ・ファシリテーター）の割合が研修参加者の70%に達する（研修時に測定）

	目標	実績
2年次	70%	92%
3年次	70%	100%

- 設定された基準⁹を満たして活動を行っている読書グループの割合が増加する

	目標	実績
2年次	増加	73%
3年次	2年次よりも増加	43%

Learning Outcome (ASLO III)による、小学4年生に問題なく進級できるレベル3 (independent level of proficiency)の%。本事業で使用したツールは3年生が学年にふさわしい読み書き能力に到達しているかを測るため同等と考える。

⁹ 研修を受けたボランティアがファシリテーターを務めている、ガイダンスで定められたカリキュラムに基づいて活動を行っている、必要な資材を備えている、毎週活動実施を基本とする、コンスタントに参加者がいる、など。

本指標は2年次より30ポイント減少し、目標に満たなかった。本指標は設備と質の両基準を満たしているかを測るが、100%のグループが設備の基準を満たしていた。一方で質の基準においては、①カリキュラムにもとづき全ての活動を行っている、②基準を満たす質の読み聞かせ活動を行っている、③十分な子どもたちが参加している、④適切な読書環境（print-rich environment）、の項目を測る。これらを満たすグループの割合は①93%、②86%、③86%、④57%であり、④の数値が本指標の未達成に大きく影響した。読書グループにおける「適切な読書環境（print-rich environment）」には8つの基準があるが、うち6つ¹⁰は100%のグループが満たしており、「教材がしばしば掲示される」が93%、「貸し出し用の図書がアクセスできる状態にある」が57%であった。一方で、「図書の貸し出しが促されている」は100%のグループが満たしていた。この基準を満たすグループの割合が低かった要因として、子どもたちが学校の図書貸し出しを利用しており、読書グループでの図書貸し出しを積極的に利用していなかったことが考えられる。また、ラオス農村部において、図書の破損・紛失を恐れしまい込んでしまうという課題は他事業にも共通する課題だが、読書グループ・ファシリテーターへの図書貸し出しや図書管理研修が十分でなかったと考えられる。

- 保護者向け読書啓発ワークショップ参加者（30人予定）のうち、75%以上のセッションに出席しポストテストでプレテストよりも正解数が増えた保護者の割合が上昇する。

	目標	実績
2年次	上昇	75%
3年次	2年次よりも増加	96%

本指標は96%と2年次から21%上昇し、達成した。詳細は活動【2】3. 子どものリテラシー向上に関する保護者の知識とスキル向上を参照されたい。

- 直近1週間に読書グループ活動に参加した子どもの数が増加する

	目標	実績
2年次		120%
3年次	2年次よりも増加	98%

本指標はどの時点での増加を実績とすべきか判断しかねるため、2年次は登録のあった子どもに対して実際に参加した子どもの数の比率、3年次は登録している子どものうち、定期的に参加している子どもの比率を報告する。詳細は活動【2】2. コミュニティでの子ども向け読書グループ活動を参照されたい。

【成果3】小学校の水衛生設備が改善され、健全な学習環境が整備される指標

- 建設・改修された水衛生施設が教育省の基準を満たしている学校の数
 目標値：対象14校中14校が達成
 終了時実績：14校中13校が達成

対象14校中1校におけるトイレ・井戸設置を中止としたため、本指標は目標を下回った（2022年3月18日承認の2年次事業変更承認申請第2号

¹⁰ 図書が50タイトル以上ある、図書の貸し出しが促されている、活字の掲示物がある、図書の記録がある、貸し出し図書が安全な状態にある、ひとつのタイトルにつき3冊ある の6項目

による)。建設を中止した理由は、同校の移転が計画されており、移転先や移転時期の見通しが立たない状況が続いているためであった。

- 過去 24 時間内に学校で屋外排泄を行っていないと回答した児童の割合
目標値：70%
実績：82%（学校のトイレを使用したと回答したのは70%）

本指標は、トイレを建設した13校では85%であった（うち学校のトイレを使用したと回答したのは72%）。屋外排泄をしている児童の割合がベースライン値の84%から終了時の18%へ66ポイントと大幅に減少した。

- 少なくとも毎日1回、手洗い促進活動を通じて児童全員が手洗いを行っている学校の数（毎年2回モニタリングで確認）
目標値：対象14校中14校が実施
2年次実績：14校中14校が実施
3年次実績：14校中14校が実施

	目標	実績
2年次	14校中14校が実施	14校中14校が実施
3年次	14校中14校が実施	14校中14校が実施

- 適切な手洗い・歯磨き習慣を身につけている児童の割合（過去24時間の必要な時に手洗い2回以上および歯磨き1回以上を実施したと回答した児童の割合を測定）

	目標	実績
2年次	手洗い60% 歯磨き60	手洗い92% 歯磨き92%
3年次	手洗い70% 歯磨き70%	手洗い89% 歯磨き89%

本指標は2年次をやや下回ったものの高い水準を維持し目標を達成した。また、88%の子どもが手を洗う時に石鹸を使用したと回答した。非介入校では石鹸を使用したと回答したのは68%であり、本事業での衛生活動の成果が確認された。

【成果4】政府関係機関との連携・モニタリング体制が強化される指標

- 助言や提案を伴った対象校および対象村へのモニタリング／コーチングの実施回数

	目標	実績
2年次	6回	6回
3年次	6回	6回

本事業では十分な回数の研修を確保し、モニタリング・コーチングを多数回実施し、継続的に必要なサポート・助言を行ったことが教員の知識・教授スキル定着につながったと評価された（終了時評価による）。

本事業の活動及び成果を通して、以下のSDGs目標実現に直接的に貢献し

	<p>た。</p> <p>●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性</p> <p><u>目標4</u> すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。</p> <p>4.1 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育および中等教育を修了できるようにする。</p> <p><u>目標6</u> すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。</p> <p>6.2 2030年までに、すべての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性および女児、ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業では、教員・保護者・住民（ボランティア、VEDC）、行政といった教育における主なステークホルダーの各レベルにおいて能力を強化することで、持続発展性強化を図った。また、計画・実施・モニタリング・評価の事業サイクルの各段階において各ステークホルダーと密接に連携・協働し、関係者のエンパワメントとオーナーシップ強化を図った。</p> <p>本事業の主な目標である小学校における読解力向上は教育スポーツ省の中期計画に合致したもので、既存の行政システム・制度に沿った活動を行い、ラオス教育スポーツ省の県・郡職員がリテラシー向上の指導員となり能力を強化することで、事業終了後も行政の取り組みの中で事業成果が維持されていくことが期待される。また、多くの教員・読書グループ・ファシリテーター、指導員が本事業で学び実践したことが児童の学習成果向上に反映されたことで自信を得、意欲を向上しており、これらのことも持続発展性強化に繋がるものである。</p> <p>終了時評価の結果を踏まえ、各村で学校運営計画を策定し、以下項目の持続性確保のための計画策定にも取り組んだ。また、政府カウンターパート・教員・村教育委員会は本事業による成果を実感しており、これら成果は彼ら自身にとって有益なものであることから、事業終了後の持続性に資すると考えられる。</p> <p>一方で、ラオス政府の教育予算は減少し続けており、特に地方への予算配分が極めて限られているなかで、活動継続への具体的な予算取り付けや確約には至らなかった。今後もラオスでの活動は継続していくため、持続発展性向上への取り組みは続けていく。各項目についての見通しは以下の通り。</p> <p>① 教員の教授スキル 教員の教授スキルは定着していることが確認され、事業終了後も教員が主体となって授業の質を維持していくことが期待される。終了時評価でインタビューを受けた教員全員が事業終了後も事業で培ったスキルの活用を続けると回答した。加えて、教育行政各レベルのモニタリング・コーチング能力及び各校との連携を強化したため、事業終了後も必要なサポート提供を継続することが期待される。</p> <p>② 学習環境 事業で整備した学習環境（読書コーナー、図書等）は研修を十分に受けた教員が責任をもって維持管理していく。</p> <p>③ 読書グループ 読書グループは事業で育成した各村の読書グループ・ファシリテーターが引き続き実施していく。活動継続のため、各村教育委員会及び郡教育局がサポートを提供するよう協議を重ねた。</p> <p>④ 保護者のサポート、家庭における学習環境 保護者が子どもの学習をサポートできるようになったことは確認されており、これは事業終了後も継続していくと考えられる。</p>

	<p>⑤ 建設施設の維持管理 各村に設置した村建設管理委員会が責任をもって維持管理をしていく。</p> <p>⑥ 教育行政 本事業では教育行政の各レベルにおいて教員の教授スキル向上指導、コミュニティでの読書グループ活動指導、モニタリング・コーチング能力を強化した。指導員の知識・スキルは十分定着していることが確認されており、事業終了後は事業で育成したこれらの指導員が中心となって、各校・村へのサポートを担っていく見込みである。また、ラオス教育スポーツ省 RIES¹¹職員 1 名が本活動を含む複数の活動に 3 年の事業期間を通して参加し、本事業のアプローチ及び成果を高く評価する理解者として、中央レベルで事業終了後も本事業のアプローチを推進していけるキーパーソンとなった。本事業のアプローチはラオス政府の教育中期計画に合致したものであり、同職員はイノベーションや成功事例の抽出等に携わる部署の専門官であるため事業終了後の持続発展性を担っていくことが期待される。なお、本事業モデルは後継 N 連事業及び当団体ラオス事務所自己資金事業で継続して実施しており、同専門官はこれら事業へ引き続き携わる予定である。</p>
--	--

¹¹ Research Institute for Educational Sciences の略称